



TITLE:

強誘電体の臨界現象(1975年度物性  
若手「夏の学校」開催後記)

AUTHOR(S):

中村, 英二

---

CITATION:

中村, 英二. 強誘電体の臨界現象(1975年度物性若手「夏の学校」開催後記). 物性研究 1975, 25(1): 82-82

ISSUE DATE:

1975-10-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/89040>

RIGHT:

## 強 誘 電 体 の 臨 界 現 象

講師 広大理 中 村 英 二

強誘電性をもたらす相互作用の正体は複雑なもののようにであり、今日のところ、未だ十分に解明されていない。しかし、強磁性の場合とは異なり、強誘電体のうちの可成りのもので、双極子-双極子相互作用が重要な働きをしているのは確かなことと思われる。強誘電体の振るまいが多彩である理由の一つは、双極子-双極子相互作用の果す役割が、個々の強誘電体によって異なることにあるとも考えられる。このことが強誘電体の臨界現象にどのような特徴をあたえているのか、又、逆に、ある強誘電体の臨界点近傍における振るまいから、その物質の強誘電性の機構についての知見を得ることが出来ないか、などの点に興味をもたれる。以下に、目次を記す。

### § 1 熱力学的関係

### § 2 強誘電体の分類と臨界現象

### § 3 強誘電臨界現象のいくつかの例

例 1. TGS (硫酸グリシン)

例 2. DSP ( $\text{Ca}_2\text{Sr}(\text{C}_2\text{H}_5\text{CO}_2)_6$ )

この講義については

座長による報告が得られなかったので、予稿集からの抜すいを以って報告に変えさせて頂きます。

文責 準 備 局